

どんぐり工房だより

〒284-0005 四街道市四街道 1-6-11 田中ビル3階 TEL&FAX043-421-6645

E-mail:kibou_donguri@ninus.ocn.ne.jp HP:http://kibou-donguri.org

マスク作りに励む手芸チーム

社会福祉協議会にも寄贈 市役所販売でも好評



「コロナに負けずガンバロー！」と、どんぐり工房の手芸愛好チームの皆さんは、マスク作りに励んでいます。もともとは所内でメンバーさん向けに作り始めたのですが、マスク不足が深刻になったことから、少しでも皆さんのお役に立てばと精一杯の量産に乗り

出し、写真のように頑張ってミシンに向かう毎日です。

市役所での月2回の販売の日には、市民の皆さんがこれまでで600枚ものマスクを買って下さいました。また社会福祉協議会にも寄贈しました。

コロナが完全に収束したわけではないし、マスクの価値が改めて認められて国民の生活により密着したものになりました。

これからもマスク作りのチームはがんばります！

頑張ってる分、ミシンが足りません。要らなくなったミシンをどなたか寄付して戴けるとありがたいです。宜しくお願い致します。

どんぐり歌壇

小林 修

最期まで息子と言ってくれた母

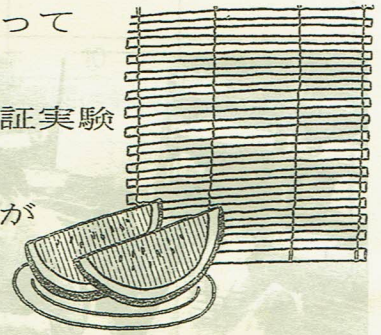
名前も呼んで欲しかったなあ

両親と世に出なかつた妹が

川の字になり眠る霊園

読者 広瀬 倫子

国土交通省が促進する、「グリーンスローモビリティ」をご存じでしょうか。電動で低速（時速20km以下）で走る乗り物でオリンピックの選手村での利用も決まっています。これの利点はたくさんあり先ず電動なので「エコ」であり、非常時の電源として使えます。低速なので運転に自信のない人でも大丈夫。バスなどに比べて小さいので小回りが利き住宅街でも走れます。バスの減便などにより外出が不便になってしまった人たちの足となる事が出来ます。昨秋さつきが丘で「オンデマンドタクシー」の実証実験が行われたようですが、もう一步先を見据えた「グリーンスローモビリティ」を行政と福祉団体がタッグを組んでやってみてはいかがでしょうか。



農園のブルーベリーが

今年も豊作の「予感」

みんなで収穫をしながら「流しそうめん」など如何？

今、農園では空まめや鞘インゲン、玉ねぎ等の収穫が終わり、いよいよ夏野菜のシーズン、さらに秋に備えてサツマイモの苗の植え付けなども始まりました。今年も、ブルーベリーの実が少しずつ大きくなりやがて濃い紫の粒になって、収穫期を迎えます。

昨年はこの時期に合わせて「そうめん流し」をみんなで一緒に楽しみました。熱い真夏の陽射しを浴びて汗をかきながら、ブルーベリーを手で摘んで、そのほてりを冷ますように木陰でそうめん流し。イヤァ・・・これこそ夏の風物詩！メンバーさんからも「今年はそうめん流しはやらないんですか？」とのこえ。

オーナーの任海さんが、竹を切って「流し」を作って下さるのは大変なご苦労なのを知っていますが、今年も楽しみにしているメンバーさんの声を聴いて下さるようお願いしてみましよう。



この条のこーな

ベッドにて 体温測り とんぱりり (十)

水仙と 紫大根 きれいだね (心)

夏の暑い日に汗したたる (一)

リビングに 花を飾つて 潤いを (心)

鈴虫も この世の名残と 思い知れ

人もこの世に 生きるものなら (一)

農園で 摘んだ野菜は みな美味し (心)

精神も 割引してよ ンヨ (おーくま)

この橋の 右を渡らぬ 非国民 (おーくま)

ムリすんな あせつたことば 手遅れだ (おーくま)

独身じゃ 夫婦円満 しょうがない (おーくま)

多数派に 必ず負ける 少数派

(おーくま)

地元の人 九二回

(地元の人:A アナウンス:B)

B「私がその会社を知つたのは学校の就職斡旋ではなく、職安でもない、新聞の求人募集の、新聞紙の小さな片隅で見かけたのです、印刷会社の、構内の軽作業と書いてあります、軽作業といふことであらばと私は考えた、営業は無理と思つた、販売員も駄目であらうと考へた、事務など予想するにすら無理である、就職は工員以外考えられない、それも軽作業といふのであらばなんとかなると安易に考へていました、独身寮もある、そこがどのよなものかも知らずにいた、飯は喰えるし風呂もある、私にとって都合の良い場所でした、アパートなど借りたら飯を喰うのが精いっぱいであらうとは察しがついた、給料は安いのです、入社一日前に寮に入りました、飯は用意するからと管理人は言いましたけれどそれは申し訳が無いからと近くのスーパーで弁当を買つてきました、夜暗くなり始めたころです、そして一晩がたつと就職をいかに気楽に考へていたのか知りました、眠れなかつた、働いた翌日も相変わらず、そのうち眠れるようになるだらうとの樂觀は一週間たつてしたたかに打ち砕かれた、いえ、状態は数か月たつても予測できない、いえ、絶望的に思われた、将来を考へるとははできない、明日

のことさえも知れなくなつていました、半年ほどたつたころ管理人が「二」して、こんなものが届いたよと話しかけてきました、葉書です、よく見ると投票用紙です、あなたもこの市民になつたのだから考へて投票するよといふと勧めてきました、では誰に投票すれば労働という環境から救ひ出してくゑるか、そのよふなことは誰にもできなかつたのである、私は投票を考へなかつた、もはや投票すら無駄で、働き続ける、私に許されたのはそれだけです、体力は限界に近くなつたけれどまだ動けた、二年たつても仕事の要領を得ない、それでも働き続けました、四年目になつてよつやく四時間ほど眠れるようになりましたが睡眠不足を解消できる日は無かつた、私の疑問は一点に集中した、疲労ではなく、仕事の出来、不出来でもない、何故眠れないか、それだけです、体力は消耗し考へることさえもできません、体の状態まで気にしているわけにはいきませんが、いぜん軽度の神経症のまま心身の破壊がやつてきました、五年余りで会社を辞めてしまつた、ひと月の間私はぼんやりしました、働いていた時に私は一冊の本も読めなかつた、たつた一冊の本さえ…そこで何を考へたのか学生のころ馴染んでいた神田の神保町を訪れました、そして大きな本屋の新刊の棚の或る雑誌に気をとられたのです (一)